

SEED (シード)

Vol.032
2025年11月

学生が主体となってイベントを実施する等、これまでの活動の成果が現れ始めています。今号では、6つのプロジェクトから寄せられた活動報告をご紹介します。

【まちづくり・地域づくり部門】経済学部 松本 典子 先生プロジェクト
連携先の皆様と協働しながらコンセプト映像の制作を進めています！

活動テーマ 世田谷のコモン・スペースを発信するコンセプト映像制作

9月～11月にかけて「世田谷のコモンスペースを発信するコンセプト映像制作」プロジェクトの制作対象となる学び舎トーカ、タタタハウス、HOME/WORK VILLAGEをチームごとに訪れ、撮影をしています。

撮影にあたっては、それぞれのコモンスペースで活動する人たちの思いに寄り添って対話を深めながら、撮影内容を調整しています。当初の予定より、たくさんの時間をかけて、さまざまな場面やシーンを撮影することで、より良いコンセプト映像をつくれるように頑張っています。11月～1月にかけて、編集作業に入ります。



▲学び舎トーカにて



▲タタタハウスにて



▲HOME/WORK VILLAGEにて①



▲HOME/WORK VILLAGEにて②

【まちづくり・地域づくり部門】経済学部 長山 宗広 先生プロジェクト
イベント開催に向けた準備、企業と連携した新商品開発を進めています！

活動テーマ 世田谷区の地域資源を活かした アントレプレナーシップ教育の実践

本プロジェクトでは、①「世田谷デジタルものづくりフェス」の企画・実施、②株式会社東果堂と連携した「フルーツ新商品の開発とイベント販売」という2つの活動が進行しています。それぞれの活動報告が届きましたのでご紹介します。

【「世田谷デジタルものづくりフェス」の企画・実施】

12月25日・26日に開催される「第3回世田谷デジタルものづくりフェス」に向けて、現在さまざまな準備が進んでいます。

今回は、こども・高校生・地域の方々が、デジタルとアナログを自由に行き来しながら学べる“ものづくり体験”がテーマです。当日は、プログラミング、3Dモデリング、マイクラフト教育版、ロボット制作、ポスターづくりワークショップなど、多様なコンテンツが実施される予定です。

先日は、会場となるHOME/WORKVILLAGE（旧池尻中学校跡地）に学生が訪問し、ブース配置や導線の最終確認を行いました。広い校舎を活用した実験的なレイアウトが可能で、参加者がワクワクしながら回遊できる空間づくりが進んでいます。

また、制作チームではチラシのデザイン案も完成し、各コンテンツの担当者が内容に問題がないかを最終チェック中です。「どの世代でも楽しめる」「デジタルの入り口になる」というコンセプトを伝えられるよう、写真や配色にもこだわった仕上がりになっています。

フェス当日は、大学の教員や学生だけでなく、学校・企業・自治体など多くのパートナーが協力し、地域に開かれた“学びの場”をつくりあげていきます。子どもたちが夢中になって試行錯誤する姿や、来場者どうしの交流が生まれる時間を目指して、準備は着々と進行中です。12月の開催に向け、今後も最新情報を発信していきます。

【株式会社東果堂と連携した「フルーツ新商品の開発とイベント販売」】

現在、フルーツ専門店「東果堂」が立ち上げる新ブランド「凍果堂（とうかどう）」のプロジェクトに参加し、学生の視点からブランドデザインの提案を進めています。

凍果堂は、「フルーツを“美味しく楽しく余す事なく”届ける」アイスブランドであり、国産フルーツを主役にしたフロゼンスイーツを通じて、日常に“#フルーツのある食卓”を広げることを目指しています。特に、四季の果実を最も美味しい瞬間のまま届ける加工技術や、生産者とのつながりを活かした地域循環型の仕組みづくりが特徴です。また、洗練されたデザインで、ストリートに馴染みながら上質さも感じるブランド表現にも挑戦しています。

私たちはパッケージやロゴ、制服、ノベルティなど多角的なアイデアを提出し、世界に誇る日本のフルーツ文化を新しい形で発信することに貢献したいと考えています。「フルーツ離れ」が進む中で、若い世代にも手にとりやすい“果実を食べるアイス”という楽しさを広め、国産フルーツの未来につながるブランドづくりを進めています。

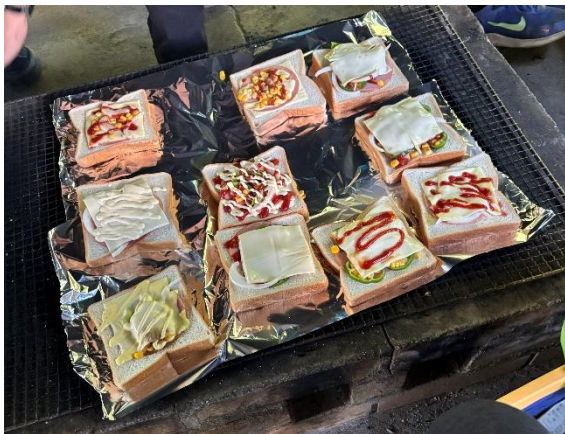
【まちづくり・地域づくり部門】文学部 川上 富雄 先生プロジェクト
学生たちが世田谷区内の福祉活動に継続的に参加しています！

活動テーマ 玉川地域を中心とした住民福祉活動への学生参加事業

本プロジェクトでは、学生たちが世田谷区内の福祉事業所等での継続的なボランティア活動を行っています。学生たちから、3つの活動報告が届きましたのでご紹介します。

【新町児童館】

新町児童館では、毎月乳幼児親子から中高生に向けて、子育て応援事業や作る・出かけるなど多様なイベントを開催しており、地域の居場所になっています。8月には、2泊3日の合宿に同行し、児童たちの調理活動や川遊びの見守りお手伝いをしました。私達たちが小学生の頃に感じた自然や仲間とする調理の楽しさを再度味わうことができ、貴重な時間となりました。



【うさちゃんぽっぽ】

子育て中のパパ・ママさんたちが集まってみんなでおしゃべりしながら未就学児の子どもたちと遊び、情報交換や友達作りの憩いの場として、毎月第二金曜日に開催しています。うちわ作りやヨガ、クリスマスオーナメント作りなど季節に合わせた遊びを実施しています。

【笑顔咲くキッチン】

笑顔さく街キッチンは、毎月第3土曜に、子どもたちを無料・大人も300円で食事を提供する子ども食堂です。地域の支えあい活動として、ボランティア団体の方々がカレー作りを行っています。みんなで作るカレーは特別なものとなり、毎月第3土曜を楽しみにして来る子どもたちは多く、毎回賑わっています。

【まちづくり・地域づくり部門】文学部 李 妍焱 先生プロジェクト

学生が主体となり公開ゼミを実施、様々な方との議論を深めました！

活動テーマ 駒大生が駒沢のまちづくりにおけるコモンズ形成にどう貢献できるか
—「駒沢こもれびプロジェクト」への参与観察を通して

駒沢のまちづくり活動に、大学生ならではの貢献をしたい！そんな思いで実現したのが、私たちのゼミ調査研究の成果を「駒沢こもれびプロジェクト」につなげる対話企画でした。同プロジェクトにおいて、市民主体の運営をどう実現していくか。そのための貴重な示唆を石川県での合宿現地調査から見出すことができました。

その成果を活かすべく、9月24日に石川県と「駒沢こもれびプロジェクト」との対話企画を第1回こもれび公開李ゼミとして実施しました。研究者やまちづくりの実践者、他大学生、世田谷区職員、世田谷区議会議員の方々など、20名以上が会場に集まりました。石川県加賀市にある市民によるまちづくりの拠点3か所の関係者がオンラインで会場とつながり、市民主体をめぐる充実した議論ができ、来場した皆様とともに学び、考える良い機会となりました。ゼミ生が執筆した当日の記事は、「駒沢こもれびプロジェクト」のWebマガジン「今日の駒沢」に掲載されています。

<https://comorevi.com/nowadays/10816/>

また、石川県での合宿調査と公開ゼミについて、現地でのフィールドワークをサポートしてくださったコーディネーターの方による記事も公開されました。

<https://bunanomori.com/fieldwork4/>

10月25日には、こもれびプロジェクトが主催した第3回「こまざわ一箱古本市」に参加しました。一箱古本市とは、両手で持てる一箱分の本を持ち寄ることで、誰でもその日限りの本屋さんになれる手作りのブックマーケットのことです。市民による主体性、そして私たちの研究テーマである「市民的コモンズ」の在り方を強く感じられるイベントでした！



11月19日には、駒沢こもれびスタジオで第2回公開ゼミの実施を予定しています！今回の公開ゼミは、ゼミ生たちが主導して主体的に準備を進めてきました！NPO法人neomuraの新井佑さんをゲストに、ラジオ番組風に対話企画を実施します。興味があればぜひ足を運んでみてください！（この記事は11月15日時点で作成されたものです）



【SDGs部門】医療健康科学部 村田 渉先生プロジェクト

福島県での活動に参加、環境省と連携して中高生向け講座を実施しました！

活動テーマ RED-RINGプロジェクト ：持続可能な放射線教育の深化と波及

今の福島（原発周辺・浜通り）を見聞し、放射線の正しい理解を広める「たんぽぽプロジェクト」に、RED-RINGメンバーの関口颯太（医療健康科学研究科1年）が参加しました。志を同じくするプロジェクト同士の連携の一環です。

現地では、整備が進む駅前や新規店舗に復興の歩みを確認する一方、津波で更地となった地域に震災の深さを目の当たりにし、“科学的に正確で、しかも伝わる教育”の重要性を再認識しました。得た学びは、教育企画設計・教材開発へ速やかに還元したいです。

また、第41回日本診療放射線技師学会大会では、RED-RINGとの連携のもと、卒業生が「放射線量ブラックジャックを用いたメディカルスタッフへの介入とその効果」を報告しました。



▲「たんぽぽプロジェクト」（福島県）にて

さらに、11月8日には環境省と連携して「第2回 放射線リテラシー交流会 — 僕らのラジエーションアカデミア！ —」を開催しました。放射線防護カードゲームやシミュレーション型討論「DDD Lite」に加え、環境省ご担当者様の講演を通じて、復興再生土の利用という期限ある社会課題について、多角的に学ぶ機会を参加者の中高生に提供できました。



イベントの様子をまとめた
グラフィックレコーディング

今後もRED-RINGは、在学生・卒業生・学外機関と協働しながら放射線リテラシー教育の輪を広げる取り組みを一層進めていきます。

【SDGs部門】経営学部 村山 元理 先生プロジェクト

「せたそら（せたがや農福ファーム）」を訪問し、学びを深めました！

活動テーマ 幸せ創造企業を実現するには

「せたそら（せたがや農福ファーム）」は、2022年春に始まった障がいのある方の就労と地域交流を目的とした農園です。

農園内は雇用者用スペースとイベント用スペースに分かれており、どちらも自然農法で運営されています。運営は電通グループが行い、現在は地域の障がいのある方約18名が社員として農産物の栽培などに携わっています。

「せたそら」が目指すのは、単なる障がい者雇用ではなく、地域全体で障がいのある方を理解し支え合う“インクルーシブな社会”の実現です。そこで、農作業体験会やオープンファームを通して地域住民が障がいのある方と自然に交流し、理解を深める取り組みをしています。

また、農園で採れた野菜は、直接販売するほか、地元飲食店にも納品しています。ほかにも、地ビール醸造所から提供された麦粕を肥料に使い、作物を育てるなど地域資源を循環させる仕組みも構築しています。

「せたそら」の社員の方々は、「外で身体を動かす仕事が自分に合っている」「地域の人と直接関われるのが嬉しい」と語っており、仕事を通じた生きがいを実感しています。

「せたそら」の取り組みは、地域全体がつながる仕組みを構築しており、障がいのある方が安心して働ける環境をつくるだけでなく、地域住民が互いを理解し、支え合う社会の実現を目指すものです。農作業や販売といった仕事を通じて、誰もが参加できる共生社会の形を地域から発信しています。



- 今年度の駒大生社会連携プロジェクトについては、[令和7年度「駒大生社会連携プロジェクト」](#)をご覧ください。
- 駒澤大学の社会連携に関する最新情報は、[社会連携センターのホームページ](#)のほか、社会連携センターSNSでも発信中です。フォローよろしくお願いします！
[X \(@koma_collabo\)](#) [Instagram \(koma_collabo\)](#)